住まいと家族の関係を考える授業研究
―家具・家電の配置のシミュレーションをとおして―

Studies on the Classroom Instruction Learning of Relationship between Home and Family life
―Through the Simulation of Plotting Furniture and Home electric appliance―

吉　原　崇　恵・鈴　木　裕　乃*
Takae YOSHIHARA・Hirono SUZUKI

（平成11年10月4日受理）

はじめに

吉原は『戦後家庭科教育実践研究』[1)]の中で住教育を担当したのだが、そこでわかったことは1960年代、70年代は住み手の生活を考える住教育実践がなされにくい時期だったことである。それは、高度経済成長・技術革新・科学技術教育の振興の時代にあって、1958年に設けられた技術・家庭科は技術教育の性格を強くもっており、食物教育も被服教育も調理であり被服製作に終始していた時期というわけである。住居に関する内容は見あたらないと言っても過言ではなかった。この時期が20年間も続いたことは住教育の発展からして大いなる損失だということが出来る。そのために技術教育に時間を割いた「小さな家具の製作」や「木材加工」の内容の中で、かろうじて生活の中の利用場面を考えさせる機会をもうけた実践が散見されたくらいである。1980年代になると台所の動線または住居管理としてのごみや掃除の教材の展開においても生活の実際をよく観察し、記録し分析するという科学的な方法が採られるようになって、追試的な実践も広がっていったのである。また、食事や団らんの空間が教科書教材になると、空間の組み合わせとそこで展開するであろう人々の生活行為をイメージしながら空間と生活行為の関係を取り上げた指導が見られるようになってきた。中学校は1989年に家庭生活領域が必修領域として設けられたが、住居領域は選択領域である。しかもその後の調査では静岡県も例外ではなく全国レベルでも住居領域の選択率は他領域に比べて最も低い割合である。その原因を追究した報告もあるが「体験学習がさせにくい、教材がない、学習したことを生活に生かしにくい、教師養成における問題点」などがあげられてきた。しかしながら、1996年教大協（日本教育大学協会）全国家庭科部門の特別委員会で行った調査報告で吉原が担当した「住生活」の学習指導について全国レベルで大学教官から推薦されてきた実践を分析した結果では、住生活を諸条件との関係で理解させるものが多くなっていた。例えば「家族構成の違いや要求と住空間の使い方」「間取りの違いによる生活のしかたの可能性と限界性」「現代住居の気密性と生活スタイルの結果としてのダニ、カビと住居の維持管理の関係」などである。

他方、島田地区家庭科研究会では住教育を「家庭生活領域」の中で展開することを追究して

*　鈴木裕乃　静岡大学附属島田中学校教諭

きた。前述したように住居の教育が歴史的に「すまいと家族の関係」を考える実践研究に進んできているにもかかわらず、住居領域の選択履修の機会が少ないこと(静岡県内では保育領域の選択履修が多い)、自立に向かう中学生に家族との関係を考えさせるための具体的な教材になりうること、家庭生活領域にある住教育の内容が整備や美化に限られていることを問題視したわけである。

そこで「あなたの机をどこにおく？」(1997年度島田第一中太田圭子実践：吉原研究室伏見亜矢子卒業研究)、「高齢者の部屋をどこにする？」(初倉中学校　山本裕理実践)の題材を開発し「住まいと家族の関係」を考えさせる教材開発と授業実践を行ってきた。

いずれの研究にも吉原、鈴木は共同研究者としてかかわってきた。鈴木は、1999年度家庭生活領域の授業を構想するにあたって二つのことを考えた。一つは家族や家庭の学習を一般理論的な学習にはしたくない、答えのわかった学習では生徒達ははっと心を動かす体験を持って、考えを深めることが出来ないからである。二つ目は家庭生活領域の住居の学習に住まい方を扱いたいことである。整備や美化の学習は小学校との重なりもある。ともすれば生徒達がプライバシーを欲する時期であることからして、それは家族と自分の関係をどのように考えているのか見直してみること、そしてどのような関係をつくっていくのか、そのための住まい方を考えることが住居の学習として大切だと考えたからである。

研究目的

今回は住まい方を成立させる要素としての家具・家電を切り口として住まい方、家族の生活を考える授業を構想した。かつて、家族の求心性の役割を果たしたテレビ、電話が個別化し最近では冷蔵庫までもが個別化するという。このような現代生活の断面を取り上げることは生徒にとっては身近な教材になるだろう。そして家族とのかかわりを考え、住まい方を考える可能性を切り開いていきたい。

本報告は静岡大学附属島田中学校で分析授業で実践した単元「住まいと家族」の分析と考察である。なお当授業は計画から分析のための資料採取、その後の分析も学校の研究として取り組まれてきたものである。鈴木は授業者、吉原は共同研究者である。

学校研究のテーマは「新たな世界との出会い」であり、本単元では新たな世界を「家族の関わりを考えた住まい方にある創意工夫」として検討された。

本報告は、この検討結果を参考にして家庭科の「家族と住まいの相互関係の学習」の立場から検討を行い次の三点を明らかにすることが研究目的である。

①本単元における住まいと家族の相互の関係を考える生徒の学習過程を明らかにする。②授業で教師の講じた手だては個々の学習者にとってどのように有効であったかを明らかにする。③生徒の学習過程からみて、「住まいと家族」の単元を設定する意義を考察し、今後の課題を整理する。

研究方法

(1)授業の概要

住まいを「住空間の中で家族の生活が住まい方として現れている状態」と考え、住まいと家族の相互関係を「家族の生活が住まい方に現れ、住まい方によって家族の生活が影響される」という意味で用いることにした。そして本単元で生徒が住まいと家族の相互関係を考える場合に求められる力を次のように設定し、単元の目標にした。

1．住まい方（場、家具・家電の配置：以下同じ）の工夫によって家族が関わることができるようになる場合の工夫の良さに対する思いを持つ。単元目標（ア）―以下同じ。また、住まい方の工夫をして家族と関わっていこうとするなどの思いを持つ（イ）。
2．家族の動きをイメージしながら、住まい方の工夫ができる（ウ）、逆に住まい方から家族の動きや関わりをイメージできる（エ）、それらの住まい方の良い点や問題点を論理的に判断する（エ）。
3．家族の関わりに対する家具や家電のもつ意味や働きを考え理解する（オ）。家族が関わる空間の意味や働きを考え理解する（カ）。

授業の概要は次に示す通りである。教師が決めた想定家族を、提示した間取りの住まいにどう住まわせたらよいかを、家族が関わるための場をつくったり、家具や家電を考えて配置したりして、住まい方を工夫する。これが、今回の家具・家電の配置のシミュレーションである。さらに、自分の住まいを見直し、問題点については、改善策まで考えるという授業である。

1、2時限目は、まず、想定家族（父・母・中1兄・小5妹）を知らせ、想定家族が新しく建てた設定の住まいの間取りを鳥瞰図（図1）によって説明する。次に、想定家族が生活するために必要な家具や家電には何があるかを考えさせる。そして、個々の生徒に鳥瞰図を配布し、各自が想定家族の生活に必要だと思われる家具や家電を部屋割りと併せて考え、配置させ〈配置1〉、配置理由を書かせる。この時限は、生徒に思うまま自由に、また、自分のこれまでの生活体験だけを参考に配置させる。住宅平面図ではなく鳥瞰図を用いた理由は、より立体的である故に、自分や家族が図面の中を移動するイメージを作りやすいと考えたからである。

3、4時限目は、まず、前時に個々の生徒が考えた家具や家電の配置を小集団で紹介させる。次に、家具や家電を対照的に配置させたA，B、二つの例（図2）を提示しその違いを発表させ、それぞれの住まいでの想定家族の生活を想像させる。生徒の意見を整理し、住まいの中のプライバシーと家族との関わりについて意見交換させ、両面とも大切であることを押さえる。そして、各自が考えた家具や家電の配置を見直し、変更点がある生徒には変更させ〈配置2〉、配置理由を書かせる。この時間には、生徒は家族の関わりの大切さを実感し、家族の関わりに対する家具や家電のもつ意味やはたらきを理解した上で、家族の動きをイメージしながら、家具や家電を配置する事が期待される。

5、6時限目は、まず、生徒の住まい方の工夫の概念を広げるため、それぞれの目的に合った様々な住まい方の工夫例を講師から紹介する[2)]。住まい方の例は、ファミリールームを設け、そこに大きなテーブルと椅子を配置した例、ホールに本棚とベンチを配置し、ファミリーライブラリーにした例、ソファーの配置を対面型からL字型にした例である。次に、工夫例を参考にして、家具や家電の配置を再考させ〈配置3〉、配置理由を書かせる。そして、3回目の配置を小集団で紹介させた後、変更点がある生徒には変更させ〈配置4〉、配置理由を書かせる。最後に、自分の住まいの見直しをさせる。これまで授業によって獲得した個々の生徒の視点と能力を生かして、よい点と問題点を判断させ、問題点については、改善案を考えさせる。

なお、各時限の教師の講じた手だては次の4つである。

〈第3・4時〉個室重視の配置Aと家族の関わり重視の配置Bを比較したこと
〈第5時〉様々な住まい方の工夫例を紹介したこと
〈第5・6時〉学校にあるソファーを実際に動かしたこと
〈第3、6時〉小集団で自分の配置図を紹介し見直したこと

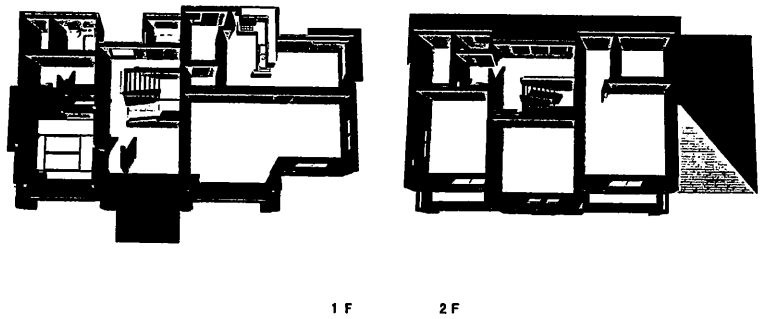
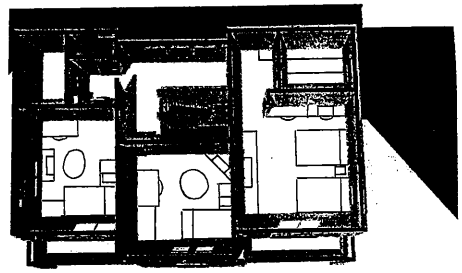


図1　配置のシミュレーションのための鳥瞰図　住友林業株式会社　鳥瞰図



個室に、冷蔵庫、テレビ、電話、パソコンが配置されている

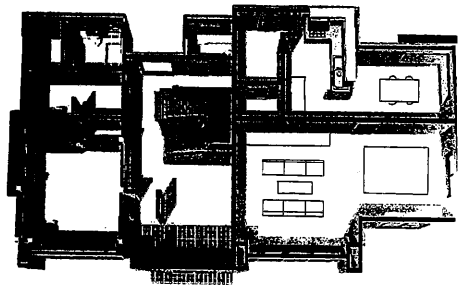
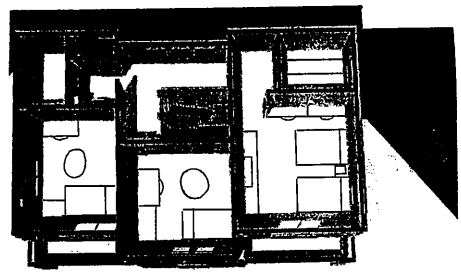


図2　個室重視の住まい方の例（A）



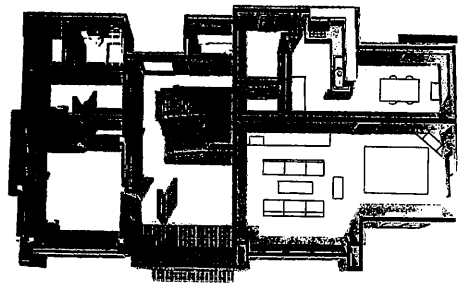


図2　家族の関わりを重視した住まい方の例（B）

⑵生徒および授業者

授業対象者である生徒は、静岡大学教育学部附属島田中学校１年Ｂ組のＡ集団、男子10人、女子10人、合計20人である。(当校では、１学級を半数で分け、技術科と家庭科の授業を隔週で行っている。)指導者は当校家庭科担当教諭鈴木裕乃である。

⑶授業実施時期および場所

授業実施期間は1999年５月31日～６月14日であり、２時間続きの授業を３回、被服室において行った。

⑷分析の方法

分析に用いる資料は次の通りである。

ａ：事前事後のイメージ調査
ｂ：２時間毎の授業感想
ｃ：４回の配置理由
ｄ：講師の紹介に対する感想
ｅ：住まいの見直しプリント
ｆ：単元終了後の感想

分析の視点は次の通りである。

①すべての資料からクラス全体としての学習過程を概観する。また、単元目標の達成状況を見る。

②学習過程が似ている生徒を分類し、それぞれの代表的な学習過程でなにをきっかけとして変容し、単元目標を達成していくのか、さらに学習可能性を広げていくのかについて、教師の講じた手だてと照らし合わせて分析する。

結果および考察

(1)授業記録

資料1　授業記録

単元目標

(1)次のような「思い」を培う。

ア　住まい方（場や家具・家電の配置）を工夫することによって、家族が関わることができるという創意工夫のよさに関わる思い。

イ　住まい方を工夫するなどして、家族と関わっていこうとする思い。

(2)次のような「能力」を身につける。

ウ　家族の動きをイメージしながら、場や家具・家電の配置などの住まい方を工夫する能力。

エ　場や家具・家電の配置など具体的な住まい方からその家族の関わりを想像したり、その住まい方のよい点や問題点を論理的に判断する能力。

(3)次のような「知識・技能」を身につける。

オ　家族の関わりに対する家具・家電のもつ意味やはたらき。

カ　家族が関わる空間の意味やはたらき。

時間	授　業　記　録 ◇目標　・教師の活動　「　」生徒の反応　○生徒の活動	○　意図・留意点など ※　解説・反省・教室の雰囲気
1 5/31	◇家族の生活に必要な家具や家電の種類を考える。 ・鈴木さん（想定家族）の家族がマイホームを買いました。どんな家か見て。図1を示す。 「うわあ大きい家だなあ。」「高そう。」「いいなあ。こんな家に住んでみたい。」「けっこう小さい家なんじゃない。」「先生これどうしたの？」 ・この家はどんな家かな。わかるところから発表してみて。 「左側にあるのは和室。」「奥に洗面所とお風呂。」「廊下の奥くにはトイレ。」「えーそれは物置じゃないの？」「右側の奥がキッチン。」「キッチンの左側は何？」「キッチンの横に一つ部屋があって、その前に大きなリビングがある。」「2階は3つ部屋がある。」「小さな部屋みたいなのは何？」 ・キッチンの横の部屋は家事室（ユーティリティー）で、2階の小さな部屋は納戸（ウォークインクローゼット）です。 ・さて、この家の方角はわかる？ 「影があるから、玄関が南、キッチンが北、和室が西で、リビングが東側。」 ・この鈴木さんの家がどんな家かはわかったね。どうだろう、この家に引っ越せば、鈴木さんは生活ができるかな？ 「できない。」 ・何が必要なの？ 「家具とか電化製品。」 ・では、鈴木さんの家族がこの家で生活できるために必要なものって何があるかな。 「机、座布団、ソファー、テーブル、ダイニングセット、テレビ、ベッド、机、タンスなど」	○鈴木家（せいご47才、かずよ47才、ひろし13才、のりこ11才） ○拡大した鳥瞰図を提示する。 ※これからどんな学習をするのかわくわくしている様子。 ※生徒はクイズのように鳥瞰図に表されているものが何かを考えていった。生徒の発表で、ほとんどがわかったが、最後までわからないものについては教師が説明をした。この時間は、生徒が大変積極的に参加し、学習に対する興味を持たせることができたと思われる。 ※この生徒の反応は自然に出てきた。

2 5/31	◇家族の生活に必要な家具や家電を考えて配置する。（図１） ・では、前の時間にみんなが挙げた家具や家電を参考にして、自分ならどんな家具や家電を配置するか、鳥瞰図に鉛筆で自由に書いてみよう。 「好きなように書いていいの？」「やったー！」「まずは自分の部屋からやってみよう。」「実際にないものでもいい？」「理想でもいいの？」 ○感想記入	○各自に鳥瞰図のコピーを配布する。修正がしやすいよう、鉛筆を使わせる。〈配置１〉 ※カラーコピーされた鳥瞰図を渡され、生徒は大変喜び、友達と話をしながら、楽しく書いていった。リビングから書き始めている生徒が多かった。授業の終わり頃には、「思ったより大変。」「案外難しい。」という声が聞かれた。適当には置けないことに気づた生徒もいたようである。
3 4 6/7	◇家具や家電の配置から家族の生活を想像し、家具や家電の配置によって、家族の生活が変わることに気づく。 ◇家族の関わりの大切さがわかる。 ◇家族の生活を考えて家具や家電を配置する。 ・みんなはどんな家具や家電をどのように配置したのかな。お互いの鳥瞰図を班で見せ合い、気づいたことを発表しよう。 「こんなのムリだよ。」「ぜいたくしすぎ。」「いろんなのがあるね。」 ・ＡとＢの家具や家電の配置を比較してみよう。それぞれの家での家族の生活はどうなるかな。図２を示す。 A：個室にテレビ、パソコン、電話、冷蔵庫を配置し、個室での生活の重視している。 ↓ 「こんな家に生活しちゃあ絶対だめだよ。」「こんなに何でも揃っちゃったら、子供が部屋から出てこなくなる。」 「そうそう、自分の欲しいものを欲しいだけ食べて、嫌なことは一切やらない。」「こういうところに生活している子供は我が侭で自己中心になる。」 「あと、生活がだらしなくなって不健康になりそう。」 「友達が全くできない暗い性格になるか、友達を連れ込んでたまり場になって、そこから非行が始まる。」 「この家って階段からすぐ個室に行けちゃう。やっぱりこれじゃ絶対ダメ。」 B：居間にソファーやテーブル、パソコンを配置し、家族が関わる生活を重視している。 ↓ 「家族が仲良く生活しそう。」 「うん、こういう家なら大丈夫。 絶対非行にはならない。」 「やっぱこういう感じじゃなきゃね。」 ・みんなの考えた家具や家電の配置での家族の生活はどうなるかな。変えるところはありそう？では、今度は家族の生活を考えて配置してみよう。 ○感想記入	○司会役を決めさせ、自分の鳥瞰図を説明し、班員から質問を受けるという形で行った。※非現実的なものや適切ではないと思われる配置について、指摘し合うことができた班もあったが、説明だけで終わってしまう班もあった。 ○それぞれの鳥瞰図を黒板に貼付する。（図２） ※このＡ・Ｂの比較で教師が押さえた点は一つもない。生徒はこのＡ・Ｂの鳥瞰図だけで、自分たちの想像を膨らませ、積極的に発言をし、議論を深めていった。教師としては、この比較から住まいのプライバシーと家族の関わりについて意見交換をさせ、なぜ家族の関わりが大切さなのかを考えさせながら、住まいには、プライバシーと家族の関わりの両面が大切であることを押さえたいと考えていた。 しかし、生徒の「Ａは絶対にだめ。」という意見に押されて、口を挟むことができなかった。そのため、この授業で、個室重視＝悪、家族の関わり重視＝善という考えが、生徒に残ってしまったようだ。

5 本時 6/14	◇様々な住まい方の工夫例を知る。 ◇様々な住まい方の工夫例を参考にして、想定家族の住まい方を考える。 ・今日は講師の先生から、それぞれの目的にあった様々な住まい方の工夫例を紹介してもらいます（資料３：図３を含む） ○話を聞く。質問は特に出ない。 ・では、３つめの例は、２班ごと、いこいの広場（本校のコミュニケーションコーナー）に行って、実際にソファーやテーブルを動かして試してみよう。 「やっぱりＬ字型の方が家族の顔が見やすいし、話しもしやすいね。」 「ソファーの向きでも雰囲気が変わるね。」 ・講師の先生のお話やいこいの広場での体験を参考にして、もう一度、配置を考えてみよう。	○住まい方の工夫例はファミリールーム、ファミリーライブラリー、Ｌ字型・一列型に配置したソファー・テーブルの３つである。（図３） ※大変真剣に聞いていた。質問があったようだが、研究授業で緊張していたようで出なかった。 ※実際にソファーとテーブルを動かしたことによって、向きの違いを実感することができたようだった。Ｌ字型以外の配置も試し、向きの違いによって、家族の視線や動き、関わりが違ってくることがよくわかったようだった。
6 6/14	◇友達の考えた住まい方の様々な工夫を知る。 ◇友達の考えた住まい方の様々な工夫を参考にして、住まい方を考える。 ◇自分の住まいを家族の関わりから見直すことができる。 ・班で自分の考えた住まい方を紹介しよう。 ※５班の様子（リビングのソファーとテーブルの配置について） 「リビングのソファーとテーブルの向きは同じだけど、置く場所が違う。私はダイニングへの移動がしやすいようにした。」 「ぼくは、明るい方を向いていた方がいいと思ってここにした。 「でも、やっぱりダイニングからリビングに行くのに不便だよね。」「でもいいの。」 ・友達の住まい方を見て、もう一度変えたい人は変えてみよう。 ・自分の住まいを見直してみよう。 ※時間がない場合は課題にする。 ○感想記入	※５班では同じ向きに配置したソファーとテーブルをどこに置いたらいいのかについて議論をしていた。議論の内容は、動線を優先するか、家族の関わりをよりよくするための快適さを優先するかの内容であり、大変興味深かった。 ※この見直しでは、教師は視点を与えていない。本単元の授業を通して、それぞれの生徒が大切だと考えた住まいの視点によって見直しをしていることになる。 ※この見直しを他の集団では課題として取り組ませた。すると、授業内で行った集団に比べて実践的な改善案を書く生徒が多かった。中には、家族と相談して実際に動かしてみて改善案を書いてきた生徒もいた。自分の住まいの見直しは、実際に動かして、家族とも意見交換して行う方がよいと感じた。

(2)クラス全体の学習過程の概況

表１　単元前イメージ　記述内容（住まいについてどんなイメージをもっているか）

Ｉ.Ｙ　みかけ　家で差別することがあってはならない　人の心が学べた　もろい家や安い木を使う家がある

Ｏ.Ｈ　雨や雪などから人を守って人間が生活するために必要なもの　地震などで壊れる
ものを置いてあり人間が生活するのにとても便利　造るために大金が必要で大変

Ｏ.Ｍ　安心　生まれた時から　幼稚園に入園した時不安だった　家族が皆安心して生活できるかけがえのない場所
学校が生活の場で家はただ寝に帰るだけ　団らんの時間を大切にしたい

Ｏ.Ｓ　建てたばかりの家に住んでいる　二階のトイレは必要がない

Ｋ.Ｔ　人が住む場所だから　道具が発達していない時代に家を造っている法隆寺は何千年も台風でも壊れない

何千年ももつのが疑問　人間ってすごい　木で造ってあるとは思えない
K.Y　10年以上経っているけどガタがきていない　木造の家、火事・地震に弱い　安全な家に住みよく作られていると思う　昔の家とつくりが違う　世界各国つくり方が違う
S.T　安すぎると手抜き　柱の数が足りなかったり釘が曲がっていたり　高くても手抜き　地震に弱い　外国の作り方が殆ど　山を削って住宅地をつくっている
S.H　居心地がよく気が抜けてしまう　広いと家族とのコミュニケーションがとれない　おじいちゃんおばあちゃんとの付き合いが大変　欠陥住宅　冷たいコンクリートの壁
S.Y　家族が協力して辛いことなど自分達の本音を言える所　住まいが乱れている　見つめ直す　それを一人一人が活用してすごい人間になっていくと思う　本当の住まいに直していきたい
S.K　家族が揃わないと話づらい　幼稚園に始めていったとき感じた。母は洗濯、父は仕事をしているが決まりはないので協力しあうことが必要
A.N　家は毎日住むわけだから住み良い家でなければならない　あまり知らない　手抜きをしないよう　もっと住み良くていろんな人に合った家が建てられるといいと思う
A.M　何の不安もなく気持ちよく生活できる　家族で楽しく生活する　安心　家族揃って待っているところ
A.Y　家族が一緒に住めるから　団らん　コミュニケーション　話　ごはん　ペット　趣味　ゆっくり寝る　落ち着く　疲れがとれる　勉強　いろんな物　暑　寒　風　土台
I.N　落ち着く　とてもいい　休める　ほっとする　欠陥住宅
I.A　旅行から帰る（不慣れな所に泊まって帰ってくる）とやっぱり家はいいなあ　落ち着くなあ　安心　家、そこに住む家族を大切にしたい
O.Y　唯一のんびりできるところ　家族もみんないるし自分の部屋もある（掃除）　おばあちゃんは70才で家事を一生懸命やっているのですごい（母が仕事なので）
K.S　住まいの働きは家族を一つにさせる　暖かい
K.Y　自分が安らぐ場　家族と交流する場　自分が育っていく場　家族と旅行に行って落ち着くわけでなく自分の家でいつも通り安心感　一番安らぐ場所で泣く　木や花を植えていて自分も同じく育つと実感
K.Y　家族だけのリラックスの場所　安心　雨風から身を守る　自分や家族の性格があらわれる
K.T　安らげる　快適　広いスペース　窓があって採光・換気・清潔→設計をすればいいと思う

表1は生徒の単元学習前の住まいに対して持っているイメージである。「安心感や落ち着くところ、ほっとするところ」「だんらん」などの機能面の認識、「安全性、快適、便利、衛生清潔」などの価値的な認識が記述されていた。また、自分や個人の視点と家族の視点が現れている場合があった。

表2－1　各時限の記述内容

①1・2限②3・4限③5・6限

I.Y ①　バランスが大事　未来を感じる　トイレは利用しやすい場所。
②　便利ならいいじゃんと思っていたが自分の部屋に何でも揃うと困るものがなくだめになる。
③　みかけがよければいいじゃんとおもっていたけれど、ふれ合い団らんを考える工夫が必要。
O.H ①　どこがどの場所かクイズみたい。自分で考えて配置していくのがおもしろかった。
②　自分の部屋にTVがほしいと思っていた。怠け者になる。自分のうちは良かった。
③　講師の話、友達の意見、自分の家と比べて良かった。
O.M ①　家具はその場合によって必要かどうか考えて買う、各部屋にTVがあるのは無駄。家族でみるほうが楽しい。
②　家族のふれ合いは大切と思った。家具によって自分の部屋に閉じこもってしまい団らんがなくなってしまうのは怖いと思った。食事やTVを見るのは家族でした方が楽しい。
③　花やペットを庭に、家族みんなで育てる。
O.S ①　自分の家を作った。楽しかった。この部屋はなにをするところなのかを考えた。
②　一人で部屋にいるのではなく団らんで暮らすのがいい家だということがわかった。
③　わかりやすく説明してくれた。

K.T ① 勉強という言葉が全く頭になかった。強制ではない。毎日こんな勉強がいい。
② 考えるような授業ではなかった。配置の説明をしたり楽しかった。本当の授業。
③ 学ぶというより緊張した。

K.Y ① いつもの家庭ではなくおもしろくなり楽しみになった。美術のようだった。真剣に発表した。欲しいものをいっぱい書いた。
② みんなよく考えていた。楽しい、家族は大切、家族についてもう一回考えてみたい。
③ 楽しいけど緊張した。みんな真剣だった。住居（学習）は今日で終わってしまうのかもしれないがまたやりたい。

S.T ① ダイニングからキッチンが見えるとは思わなかった。
② 便利ばかりは良くない、怠け者、わがまま、好き放題になる。
③ ソファーとテーブルの並べ方、見やすさと話やすさ。

S.H ① 一人一人の考えが知れておもしろかった。勝手にあこがれた（配置をした）。
考えを爆発させた。おもしろい。設計士になりたい。
② 自分が考えた家と勉強（授業で）した家は対照的。団らんの場があるので僕の家はすぐれている。
③ 家具はただおいてあるだけではなく家族のことを考えたり団らんのことを考えたり奥が深い、団らんってないとどんな家庭になるのだろう、そういう面で学習してみたい。

S.Y ① TV、電話の位置はぱっと思いついたがtable,chairの置く場所は思いつかない。ダイニングを初めて知った。家具などの配置はむつかしい。
② 子ども部屋にTVをおいて自分で好きなときに見ればいいと思っていたけど家族の団らんについて考えるとリビングだけでも十分、姉が大学、団らんの機会を増やしたい。
③ ソファーの置き方を変えた。家族の顔や様子が見えなかったから。大きなリビングに本棚。

S.K ① 自分が設計しているくらい楽しくできた。家の造りをプリントで知ったことがおもしろかった。欲しくなるほどいい配置がかけた。金持ち。
② 住まいと家族の関係はあるんだろうということを発見した。１Ｆにご飯を食べるときしか降りてこなかったり性格も自己中心的になったりする。家の人と話が出来ると協力性ができる。
③ ソファーの置く場所や机の位置であんなに変わるとは思わなかった。

A.N ① 台所など当てるのが難しかった。リビング家の工夫がわかった。家具の置き場所を決めるのは楽しかった。他の人の工夫がおもしろい。
② いつも自分の部屋にＴＶがあったらいいなと思うけどやっぱりいらないと思った。
③ ソファーの向きだけでも便利便利ではない、団らんの量が変わってしまうことがわかった。工夫の仕方はたくさんあると思う。実際に試してみて団らんが増えるといい。

A.M ① どこが和室か当てるのが難しかった。こういうことは好き。こういう授業をやって欲しい。
② TV、冷蔵庫が自分の部屋にあるとだらしない生活になると思った。閉じこもって家族の会話は減るという意見、思いつかないような意見ばかりです。
③ K.Sさんが家族の予定を書くものを作るといいと言った。とてもいい意見だと思って取り入れた。自分の家はあまり直したいところがないから、自分の家はいい家かな。

A.Y ① 配置を考えられてよかった。楽しかった。部屋の利用法が考えられて良かった。
またやりたい。
② みんなの発言が聞けて良かった。家族の関わりにも部屋が影響することがわかった。
しっかり生活の居心地や親しみをよく考えてできるといいと思った。こういう発見をしたい。
③ 実行して、ソファーを動かして、どんな感じかわかって良かった。

I.N ① とても楽しかった。早く終わってしまった感じがした。
② 自分の部屋に電話・テレビ・冷蔵庫があると、父母と話すときがない。みんなで見る方が楽しいと思った。どうすれば家族との会話が増えるのかも考えた。パソコンなどもみんなでインターネットなどをやると楽しいかなと思った。
③ ソファーの配置を換えるだけで会話が増えるんだなと思った。自分の部屋にテレビを置くだけでも家族との会話が減ってしまうなんて怖いことだと思った。

I.A ① 家の設計図、「ここは何の部屋？」がわからなかった。みんなはすごい。家具の配置はどうやってなにを置けば心地よく過ごせるのか考えるのは大変。
② 欠席
③ いすの配置はＬ字型がいいんじゃないかと思った。みんなの顔が見れて会話が増えるんだなと思った。

O.Y ① おもしろかった。意見を出し合えたから楽しくできた。自分の思うように将来の家の理想が書けて良かった。いつもこんな授業がいいな。
② 自分の部屋にテレビや電話が欲しいけれど、家族の団らんを大切にするから、自分の部屋には必要ない。電気代も安くなるから一石二鳥。
③ 家族の団らんがどうすれば多くなるかなど、家庭について勉強になった。とても良かったと思う。

K.S ① 楽しかった。難しくも感じた。いろいろ考えてできているんだな。そんな仕事につく人は大変だな。
② 家族がいないとき寂しい。自分だけの世界を家族の中で作ると、他の家族はいやな気分になる。性格もわがままで、怠けるようになってしまう。家電・家具にもその大切な家族のふれ合いに関係しているとは思っていなかった。びっくりした。こういうことを考える機会があったら、考えてみたい。ふれ合いを大事にしたい。
③ ソファーを使って実際にやれて良かった。講師の話もいい経験だった。この勉強ができて良かった。

K.Y ① 全部書くとものすごい数になって、置く場所がなくて困った。
② 自分の部屋にはテレビも冷蔵庫もないから、みんなでテレビを見ている。個人の部屋に家具が全部揃って、家族の会話がなく、非行したりする子どもがいる。みんなで住まい方を改めて考えて、家族が仲良く過ごせる家を増やしていきたい。
③ ソファーの置き方で一番良いのは、みんなの顔が見られる座り方だった。みんなで顔を見合わせて笑えるから良いと思った。自分の家でもそうしてみたいと思った。

K.Y ① どこになにを置くのが何か考えるのが大変だった。好きなようにおけるので楽しかった。
家は住んでいる人の性格を現すのは本当だなと思った。
② 見直さなければならないところがいっぱいあった。自分の部屋が便利すぎて閉じこもってしまうと、家族の団らんがなくなってしまう。
③ 団らんのきっかけを作るのは大変だと思った。ソファーの配置によって様子が変わるというのは驚いた。

K.T ① みんなが「ここは何の部屋か」という質問にみんながしっかり言えてすごい。
不便なところがある。
② 家族は安らげる場所だと書いたけど、ただ安らげるだけではなく、家族とも団らんの場所であり、個人のスペースでもあることがわかった。家具の配置一つで家族の交流のある家になったり、交流の少ない家にもなり、部屋の間取りや家具の配置が家の雰囲気を変えるたいへんな役割をもっている。
③ ソファーは同じ形だけど、なぜその向きにしたのか話し合った。いろいろな考え方があることに驚いた。前の小学校にも、附中もそうした工夫をしていて、移動の時に話をするスペースが作られているんだと思った。

表２－２　各時限の記述内容分布

目標＼氏名	1・2感想　配置1感想					3・4感想　配置2感想					5・6感想　配置3感想							見直	単元終了後の感想			
	便利	考え	好き	快適	家族	閉じ	触れ	関係	空間	家具	触れ	空間	向き	工夫	大切	関係	態度	触れ	触れ	大切	関係	態度
I.Y	○					○	○	○		○	○		○	○		○	○	◎		○	○	○
O.H	○		○				○			○	○		○	○		○		○	○	○	○	
O.M					○	○	○			○	○		○	○		○		◎	○	○	○	
O.S	○	○					○			○						○				○	○	○
K.T				○						○	○											
K.Y	○		○				○				◎							○	○			
S.T	○		○					○		○			○	○				◎	○	○	○	
S.H	○			○	○		○		○	○	◎					○		○	○			
S.Y	○		○		○		○		○	○	○		○					◎			○	○
S.K	○	○	○	○			◎	○	○													
A.N	○	○				○	○	○	○	○	○		○	○		○	○	○	◎	○	○	○
A.M		○	○	○						○	○		○	○				○				
A.Y	○	○		○		○				○											○	
I.N	○			○					○	○			○			○		○	○		○	
I.A	○		○	○	○					○	○		○					○	○			○
O.Y	○		○			○				○		○		○				○				
K.S	○						○	○		○	○		○	○				○				
K.Y	○		○		○	○	◎	○		○			○								○	
K.Y	○		○	○	○	○	◎	○		○	○	○	○		○	○	○	◎	○		○	
K.T	○		○		○	○	○	○	○	○	○	○	○						○	○	○	○
合計	17	5	11	8	7	7	13	8	6	18	13	3	13	8	1	7	3	15	10	7	12	6

便利・・・便利なように　考え・・・考えていない　好き・・・好きなように置く　快適・・・日当たり、風通し　家族・・・関わり、団らん
閉じ・・・閉じこもるようになる　触れ・・・関わり、団らんの大切さ　◎理由の記述あり　関係・・・住まいと家族は関係がある
空間・・・空間のもつ意味やはたらき　家具・・・家具や家電のもつ意味やはたらき　向き・・・家具や家電の向きを考える
工夫・・・住まい方を工夫するよさ　大切・・・家族の関わりのために住まいを工夫することの大切さ　態度・・・工夫しようとする意欲、態度

表２－１はクラス全員の時限ごとの記述内容である。表２－２は単元終了後の感想を加えて生徒の記述から共通性のある用語を抽出して記述の有無の分布を表したものである。記述に現れてくる用語は３・４時限、５・６時限では各時限の学習内容を反映していることが多い。単元終了後の感想はもっとも印象に残ったことが記述されることを意味している。

まず、１・２時限の感想は、はじめての家具の配置のシミュレーション作業に対する感想が多い。自由度が許され答えのない難しさと楽しさについての感想が多く出された。「難しかった、楽しかった、おもしろかった、好きなように出来て良かった、考えた」「またやりたい、設計士になりたい、そんな仕事につく人は大変だなあ」と、この単元に対する期待が多く出された。鳥瞰図には陰がついていて家具・家電の配置を書き込むときは煩わしさがあるという感想が見られたが、ほとんどは少し難しいを伴う楽しい、学ぶ意欲を喚起した学習になったといえよう。

３・４時限では「テレビや冷蔵庫」などを「自分の部屋におく」と、「便利で、わがまま、なまけものになり」「個室に閉じこもるようになる」、「ふれあいが少なくなりさみしい」「家族のふれあい会話が大切」「自分の部屋にテレビがほしいと思っていたけどやっぱりいらない」という文脈の記述が多く、目立った。

家族の関わりに関して家具や家電が個別化を進めたり求心性を持ったりする意味を理解した記述が多くなっている。また家族のふれあう場所としてのリビングや食事の場所の空間の働きや意味の記述が多いのはこの時限である。

「住まいと家族は関係があるんだろうと発見した」「家族の関わりに部屋が影響することがわかった」など住まいと家族の生活の関係に注目し、わかった、発見したと学習の意味を自覚する記述になっている。住まいと家族の関係を考える点は５・６時限さらに単元終了後にもっとも多く記述され学習のまとめとして印象に残った内容になっている。

この時限は討論に時間が割かれたが「みんながよく考えて」「発言するのですごい、良かった、楽しかった」とクラスの仲間と考えることの楽しさを味わうことが出来ている。

５・６時限の感想では「家具や家電の向きを考える」「住まい方の工夫をすること」の良さが記述されている。工夫することの良さの根拠は「家族のふれあい、だんらんが出来る」である。そして「ふれあい、だんらんが大切」であると単元終了後の感想でも記述される。

しかし、「なぜふれあいが大切か」「ふれあいが少ないとなにが問題か」についての根拠のある記述はさほど見られない。各時限をとおしてこの根拠を記述した生徒は10名であった。前述の授業記録にあるようにこの点の問いかけがどの時限にもなかったのである。まして住まい方の工夫の良さが「ふれあい」のための工夫に限られていたわけだから、論理的には不十分と言えるだろう。「住まい方のくふうで家族とかかわる事が出来るそんな工夫の良さ」の前提が弱いという問題が見えるのである。「閉じこもるのは良くない」だけではなんとも積極的根拠に欠けている。「自分の世界を創りたい」「大人の干渉から逃れたい」「しかし、家族に見守られたい」という矛盾をかかえようとしている発達の時期だからこそ「ふれあい」の意味や必要性について顕在化させたかったといえよう。しかし一方では生徒達は住まいと家族の関係の大まかな全体像を直感的に理解して「ふれあいが大切」と述べているのかもしれない。

単元終了後の記述で特徴的なことは先に述べた「住まいと家族の関係」という認識、家族とかかわっていこう、そのための工夫をしようという態度的な記述が多い点である。また、「団らんがないとどんな家庭になるのだろう、そういう面で学習してみたい」と家族の学習についての関心を現している。教師から与えられた課題ではなく、学習の帰結として必然的に次の問題

関心がおきてくる、そういう授業だったということが出来よう。

これらがこの単元の目標でもあった訳だから次に、目標の達成という視点で分析する。

表3　単元目標達成状況

目標／氏名	1・2感想　配置1感想						3・4感想　配置2感想						5・6感想　配置3感想						自分の住まいの見直し						単元終了後の感想					
	ア	イ	ウ	エ	オ	カ	ア	イ	ウ	エ	オ	カ	ア	イ	ウ	エ	オ	カ	ア	イ	ウ	エ	オ	カ	ア	イ	ウ	エ	オ	カ
I.Y											○		○	○	○植物							○			○	○				
O.H										○	○		○		○4人で寝る							○			○					
O.M									○4人で寝る		○	○	○		○2FにL	○						○							○	
O.S											○	○	○													○			○	
K.T											○				○父の姿															
K.Y															○4人で寝る							○								
S.T											○		○									○			○				○	
S.H			○						○テーブル		○		○									○								
S.Y								○			○	○										○			○	○			○	
S.K												○	○								○2Fに来るもの								○	
A.N											○	○	○	○	○書斎					○	○	○			○	○			○	
A.M											○	○	○		○食器棚							○								
A.Y											○						○											○		
I.N											○		○									○							○	
I.A									○机・ソファー		○	○			○書斎リビング							○				○				
O.Y											○		○									○				○			○	
K.S									○ワイン		○		○		○予定ボード							○								
K.Y							○	○			○		○													○		○		○
K.Y											○		○	○				○				○							○	
K.T							○		○テレビ 妹×		○	○	○		○パソコンソファー			○							○	○			○	
合計	0	0	1	0	0	0	2	2	5	1	18	8	15	3	10	1	1	2	0	1	2	14	0	0	5	8	0	2	10	1

〈思い〉　ア．住まい方を工夫することにとって、家族が関わることができるという創意工夫のよさに関わる思い。
　　イ．住まい方を工夫するなどして、家族と関わっていこうとする思い。
〈能力〉　ウ．家族の動きをイメージしながら、場や家具・家電の配置などの住まい方を工夫する能力。
　　エ．場や家具・家電の配置など具体的な住まい方からその家族の関わりを想像したり、その住まい方のよい点や問題点を論理的に判断する能力。
〈知識・技能〉　オ．家族の関わりに対する家具・家電のもつ意味やはたらき。
　　カ．家族が関わる空間の意味やはたらき

表3は目標達成の状況である。この表からわかることは以下のことである。

①3・4時限によって知識・技能（オ）（カ）を身につけた生徒が多い。なかでも（オ）家族の関わり、個別化を進めたり求心性の働きをしたりする家具・家電の配置があるという家具・家電の持つ意味の理解である。この時限に用いた図2は家具・家電が配置されていた点、それを比較した点で生徒の理解を助けた手だてとして有効だったといえよう。

②5・6時限は（ア）の獲得が多いのだが、とくに（ウ）家族の動きをイメージして、家具・家電の配置などの住まい方の工夫を配置図の上で表す事が出来ていた。これは工夫の紹介例、いこいの広場での活動に刺激されたといえるのだが、表3の5・6時限のウの欄に書き添えた工夫が記述されたのである。これらはいずれも自分なりの工夫である。「植物を配置して住まいを明るくする」「4人で寝る」「父の姿が見えるように家具を配置する」「父の書斎を父母の部屋にする」「食器棚をキッチンからリビングにおいてみんなが使うようにする」「書斎をリビングに持ってきて空いた部屋でカラオケを楽しむ」「家族の予定を書き込むボードをリビングにおく」「パソコンをみんなが座るソファの後ろに置いてお互いにわかるようにする」などの工夫の考案ができたのである。

③自分の家の見直しの時限では20名中14名が自分の家の見直しをする視点として「家族との関わり」をあげ良し悪しの判断基準となっていた。

④単元終了後の感想では、住まい方の工夫の良さや家族とかかわろうとする思いで自らの学習をまとめていたと言えよう。

時限を追って単元目標の獲得状況を大まかに見ると次のようになる。

まず、ＡとＢの住まい方の比較から、家族の関わりに対する家具・家電の意味や働き、家族が関わる空間の意味や働きの知識理解（オ）・（カ）を得た生徒が多かった。

住まい方の工夫で家族と関わることができるという例を紹介されて工夫することの良さを思い（ア）、住まい方を工夫する能力（ウ）を得た生徒が多かった。

さらに自分の家の見直しで、住まい方から家族の関わりをイメージしたり、住まい方の良い点問題点を判断する能力（エ）を獲得する生徒が多かった。

単元終了時の感想の段階で、住まい方を工夫して家族と関わっていこうとする思い（イ）に至る生徒が多くなっていた。

これらのことから各時限でとった手だてによって目標とした思いや能力、知識・技術は獲得され、手だてが有効であったと言うことができる。さらに見直しの時限、単元終了後の感想の段階で生徒は判断力と家族と関わっていこうとする思いや態度を獲得した点が興味深い。これらはいずれも総合的な能力であるといえよう。ゆえに、生徒が自分の生活の見直しをする事や単元終了後の感想を記述することが、単元全体で学んだことを自分の力でまとめるという点で有効性を発揮することを示していると考えられる。

⑶個人の学習過程

上記の全体の概況から各時限の特徴や個々人の目標達成の様子がうかがわれた。そこで各自の学習過程に注目して、記述内容から見る変容（単元前のイメージと単元終了後の感想および終了後のイメージの照合）が、ほぼ５つのタイプに分けられた。終了後はいずれも家族のかかわりの視点で住まいを考えることができている。そこで基本的に単元前のイメージで分けることとした。

以下は、単元前に抱いていたイメージと該当する生徒名である。

①便利さでイメージしていた。

　３名（Ｉ.Ｙ）（Ｋ.Ｔ）（Ａ.Ｎ）

②便利さと快適さでイメージしていた。

　７名（Ｏ.Ｎ）（Ｓ.Ｋ）（Ａ.Ｍ）（Ｏ.Ｙ）（Ｋ.Ｙ）（Ｉ.Ａ）（Ｋ.Ｓ）

③家族のかかわりの場所として意識していた。

　４名（Ｏ.Ｍ）（Ｓ.Ｈ）（Ｓ.Ｙ）（Ｋ.Ｙ）

④個別的羅列的なイメージを持っていた。

　５名（Ｏ.Ｓ）（Ｓ.Ｔ）（Ｉ.Ｎ）（Ｋ.Ｙ）（Ａ.Ｙ）

②便利さでイメージしていたが最後は、便利さと家族のかかわりの両立を考えた。

　１名（Ｋ.Ｔ）

次に各タイプの典型として一人ずつを取り上げ学習の過程と変容の様相を分析する。

資料2　個人の学習過程

①　便利さでイメージ　Ⅰ.Y君の学びの過程

資　料	記述の内容	コメント
①単元前イメージ	小学生の頃住まいのことで差別を受ける。 ※住まいに対してマイナスイメージを持っている。	A・Bの比較によって、家族の関わりの大切さに気づき、家具や家電のもつ意味やはたらきを知り（オ）、冷蔵庫の配置を変更している。 住まい方の工夫例の紹介によって、家族の関わりの大切さを再認識し、団らんのために住まい方を工夫する必要性に気づいている（ア）。 配置図3では、住まいを明るくするために、植物を配置している。これは、Ⅰ君が家電・家具のもつ意味やはたらきを応用し、植物によって、家族（住まい）を明るくしようとする、彼なりの工夫である（ウ）。 住まいを便利さ重視で考えていたⅠ君は、自分の住まいを家族の関わりを視点にして見直している（エ）。 単元終了後の感想には、自らの意欲が記述されている（イ）。また、住まい方を工夫することのよさに関わる記述も見られる（ア）。
②配置図1理由	便利な物がある部屋にした。リビングだからソファーを置く。 ※便利さを考えている。空間のはたらきは理解していない。	
③1・2時限感想	利用しやすいようにすることが大切。 ※便利さを考えている。	
④配置図2理由	自分の部屋から冷蔵庫をなくす。 ※家族との関わりの大切さに気づいている。家具や家電のもつ意味やはたらきを理解している。	
⑤3・4時限感想	便利で何でも揃って、困ることがなくなることを問題にしている。 ※住まいが家族の生活、人格に影響すると考えている。	
⑥配置図3理由	植物を配置して住まいを明るくした。 ※住まいを明るくするため工夫している。	
⑦5・6時限感想	テーブルやベットは見かけがよければよいと思っていたけれど、家族の団らんのために工夫することが必要。	
⑧住まい方の工夫例の紹介	団らんがどれだけ大切かを知った。ソファーの置き方など工夫すれば住まいは明るくなる。 ※団らんの大切さを再認識。住まい方を工夫することのよさに気づいている。	
⑨配置図4理由	変えない。	
⑩自分の見直し	自分の部屋がないことはこもらずにすむからよいことだと考えている。 ※住まいのイメージがプラスのイメージに変わった。	
⑪単元終了感想	最初は適当でよいと思っていたが、部屋割りや家具・家電の配置をイメージすると正しい部屋割り、物の配置が見えてくる。大人になったら工夫していきたい。 ※住まい方を工夫する意欲や態度を身につけている。	
⑫単元後イメージ	一番思うのは団らんである。今は揃いすぎて団らんがとれないことがある。配置を工夫すれば、話す回数も増える。	

〈考察〉

Ⅰ君は単元前のイメージや配置1の理由から、住まいは見た目がよく、便利であることが大切であると考えていた生徒である。それが、3・4時限で（オ）を身につけている。1・2時限まで、住まいは便利でなくてはと考えていたⅠ君は、A・Bの比較によって、家族の関わりがなくなり、子供が部屋にこもってしまうことに家電が影響していることに気づき、自分の部屋から冷蔵庫をなくすという工夫をしている。そして、住まいが家族の生活、人格に影響すると考えるようになった。このA・Bの比較は、住まいは便利であることが大切と考えていたⅠ君にとって、住まい観を転換させる大きな手だてになったと言える。Ⅰ君は、以後の配置も自分の住まいの見直しも、家族の関わりを視点にして行っているからである。またⅠ君は配置3で（ウ）を身につけている。配置3では、住まいを明るくするという目的で植物を配置している。これは、教師が紹介した工夫でも友達の工夫を参考にしたものでもない、彼なりの工夫である。配置2でも、自分の部屋から冷蔵庫をなくすという工夫をしているが、冷蔵庫は、A・Bの比較で取り上げた内容そのものであり、それゆえに、能力を発揮したとは判断しなかった。この植物の配置は、A・Bの比較によって、家族の関わりに対する家具や家電のもつ意味やはたらきがⅠ君の中でしっかり認識され、それを活かして発揮したものと考える。

5・6時限の住まい方の工夫例の紹介では、Ⅰ君は住まい方を工夫することで家族の関わりが変わるという実践例を知ることによって、住まい方の工夫のよさを実感し（ア）、単元終了後の感想に記述されているような自らの意欲（イ）もつながったと思われる。

Ⅰ君は、住まいのよさを見た目や便利さで考えていたが、本授業によって、住まいのよさを家族の関わりがあることというように考えを転換させて追求していった生徒と言える。

②　便利さと快適さでイメージ　Ⅰ．Aさんの学びの過程

資　料	記述の内容	コメント
①単元前イメージ	安心し、落ち着ける場所。	1・2時限から便利さよりも快適さを優先しようとしている。また、家具や家電の意味を考えようとしている。 A・Bの比較によって、家具や家電のもつ意味やはたらきを知り（オ）、ピアノの配置に生かしている（ウ）。 住まい方の工夫例の紹介では、快適さと家族の関わりの両面を大切にしようと考えている。 そして、配置3では、リビングに父の書斎をつくり、ファミリールームにカラオケを配置する、すばらしい工夫をしている（ウ）。これは配置2で発揮したよりも高い能力である。 5・6時限の小集団活動で自分の考えに自信をもつようになっている。 家族の関わりを視点の中心にして、自分の住まいを見直している（エ）。また便利さや安全性にも目を向けている。 単元終了後の感想には、できる範囲で改善していこうとする意欲が記述されている（イ）。
②配置図1理由	子供部屋は快適さと便利さ（陽の光が入るように、座りやすいように）を、リビングは快適さ（ひなたぼっこができるように、ゆっくり見ることができるように）を、ダイニングは団らんと便利さ（みんなの顔が見えるように、使いやすいように）を考えて配置した。	
③1・2時限感想	何もないところに何をおけば心地よくなるかを考えた。	
④配置図2理由	テレビをリビングとダイニングに配置した。妹がこもらないようにピアノを部屋から出した。快適さ（日当たり）も考えている。 ※個室にこもらせないようにすることと家族の関わりを考えている。	
⑤3・4時限感想	早退のため未記入	
⑥配置図3理由	テーブルで何か飲みながら本が読めるようにソファーをL字型にした。父の書斎をなくし、リビングで仕事ができるようにした。空いた書斎をカラオケルームにして、家族や友達と楽しむ部屋にした。 ※リビングで仕事ができるようにしたり、カラオケルームをつくったりと自分なりに工夫している。	
⑦5・6時限感想	ソファーの並び方は迷ったけど、みんなの意見でL字型に決定した。	
⑧住まい方の工夫例の紹介	4人が集まることができる部屋や全員で利用できる本棚がよい。温かくて、仲がよい家族でいられるという感じ。暮らしやすく、落ち着いていて、家族の仲がよいのが理想である。	
⑨配置図4理由	変えない。	
⑩自分の見直し	畳の部屋が広くて、みんなが集まれる。テレビの数が少ないので、テレビを集まって見ている。音楽関係の部屋があり、家族で楽しんでいる。	
⑪単元終了感想	どうしたらみんなが安心して暮らせるか、団らんを増やすにはどうしたらよいかを考えて配置した。講師の先生が見せてくれたものは家にはないけど、少し改善していきたい。	
⑫単元後イメージ	家の形や作り、大きさなど、どの家も違うけど、共通点は、安心できて家族と話ができるところだと思う。自分の家をいつまでも楽しく過ごせるように大切にしたい。	

〈考察〉

Aさんは単元前のイメージや配置1の理由から、住まいの視点として便利さと快適さをもっている。1・2時限終了の感想には、「何をおけば心地よくなるかを考えた。」という記述があり、この時間に既に、家具や家電の配置によって、家族の生活が変わることを何となく感じているようだった。

そして、3・4時限のA・Bの比較によって、家族の関わりの大切さを再確認し、1・2時限でおぼろげであった、家族の関わりに対する家具や家電のもつ意味やはたらきを理解し（オ）、テレビをリビングとダイニングに配置している（カ）。そして、Aさんは家具や家電のもつ意味やはたらきをピアノに生かし、妹が部屋にこもることがないように、部屋からピアノを出すという、彼女なりの工夫もしている（ウ）。

さらに配置3でAさんは質の高いすばらしい工夫をしている（ウ）。リビングに父の書斎をつくり、ファミリールームにカラオケを配置するというものである。これは、5・6時限の住まい方の工夫例に自分なりの工夫を加えたものである。Aさんにとって、この住まい方の工夫例の紹介は、より高い工夫をするために有効な手だてになったと思われる。　ソファーを動かす活動は、彼女にとってソファーの向きを決定するものにはならなかったようである。しかし、その後の小集団の話し合いで、自分の考えに自信を持ち配置を決定している。ソファーの向きについては、Aさんの場合、ソファーを動かす活動よりも、小集団での話し合いが有効にはたらいたようである。

Aさんは、授業前からもっていた快適さの視点と、本授業によって深めることができた団らんの視点の両立を考え、また、常に教師から紹介された工夫を自分なりにアレンジしていくことによって、深い追求ができた生徒である。

③　家族の関わりの場所として意識　O.M君の学びの過程

資　料	記述の内容	コメント
①単元前イメージ	安心する場。団らんを大切にしたい。 ※家族の関わりの視点を持っている。	A・Bの比較によって、家具や家電のもつ意味やはたらきを知り（オ）、TVの配置を変更し、空間のもつ意味やはたらきを知り（カ）、パソコンをリビングに配置して、話す機会を増やしている。 また、4人で寝るようにしたことは彼なりの工夫をしている（ウ）。 住まい方の工夫例の紹介によって、O君は家族が関わるための住まい方の工夫のよさへの思いを高めている（ア）。 また配置3では、2Fにリビングを作る工夫をしている（ウ）。 自分の住まいの見直しでは、家族の関わりを視点にして見直している（エ）。
②配置図1理由	その部屋の目的に合った家具や家電を配置した。	
③1・2時限感想	家族の関わりを考えて配置している。経済も考えている。	
④配置図2理由	TVを子供部屋から外した。（こもらないように）父母の部屋に子供の二段ベットを配置した。パソコンを一台にして、話す機会を増やして、明るく楽しい家庭にする。 ※子供が部屋にこもらないようにしようと考えている。家族の関わりの大切さへの思いが高まっている。	
⑤3・4時限感想	家族の団らんは大切。家具によって家族の関わりが変わる。食事やテレビは一人で見るよりも絶対家族でした方が明るく楽しい。 ※住まいが家族の生活に関係すると考えている。	
⑥配置図3理由	ソファーをみんなが見えるように配置する。ファミリールームを作る。	
⑦5・6時限感想	さらに団らんを大切にしたい。	
⑧住まい方の工夫例の紹介	机や椅子の向きも大切。せっかく団らんの時間があっても話がしにくい配置ではもったいない。	
⑨配置図4理由	変えていない。	
⑩自分の見直し	家族4人が同じ部屋に寝ている。TVがリビングに一つしかない。兄弟が同じ部屋。1階で勉強していること。	
⑪単元終了感想	家族の団らんがとても大切。配置によって、部屋にとじこもったり、話しをしなくなったりする。家具は人々にとても大きな影響を与える。	
⑫単元後イメージ	安心して生活するのに欠かせない場。家具の配置によって団らんなどの生活に大きく関係する。住まいが悪いと話す機会が少なくなったり、家族関係が不安定になる。家具は多いほどいいわけではない。	

〈考察〉

O君は、はじめから住まい＝家族の関わりいう視点を持っている。これは、O君が家族との関わりは大切なものであるという思いを持っていたからである。O君は、本校に入学してから家族の団らんが減ってしまい、とても寂しいという日記を何度も書いており、彼自身が今、家族の関わりを必要としていたことも影響していると思われる。このような実態のため、O君は配置1から家族の関わりを考えて配置しようとしている。しかし、どうしたら家族が関われるか、具体的な方法がわからず、配置1では、リビングだからTVとソファー、椅子を置くというものであった。それが、3・4時限のA・Bの比較の授業によって、家族の関わりに対する家具や家電、空間の意味やはたらきを理解し（オ）（カ）、配置2では、家族の関わりをより多くしようと、父母の部屋に2段ベットを配置するという、彼なりの工夫をしている（ウ）。（これは自分なりの工夫であるために能力を発揮したと判断した。）これは、A・Bの比較の授業で、子供が個室にこもるようになるとわがままになったり、非行に走ったりするのではないかという意見が授業中多く出され、そのことに驚き、これまで以上に家族の関わりの大切さへの思いを強めていったのではないかと思われる。O君の場合、A・Bの比較の授業は、家具や家電、空間の意味やはたらきを理解するためだけではなく、家族の関わりの大切さへの思いを強めるためにも有効にはたらいていたと思われる。

5・6時限の住まい方の工夫例の紹介では、工夫例のすべてが家族の関わりのために工夫していた例であったために、O君は、住まい方の工夫のよさに気づくだけでなく（ア）、家族の関わりの大切さへの思いをより強め、ただ家族が関わることができればいいというのではなく、その家族の関わりをよりよいものにしていきたいという思い（イ）までもつようになったのではないかと思われる。そして、自分の住まいの見直しでは、O君はすべて家族の関わりの視点から見直しを行っている（エ）。

O君は、本授業によって、家族の関わりの大切さへの思いを強め、家族の関わりをより多くしたり、より深めたりする手だてとして、住まい方の工夫を追求していった生徒である。

④　個別的羅列的　S．T君の学びの過程

資　料	記述の内容	コメント
①単元前イメージ	あんまり安いと欠陥住宅だったりする。手抜き工事が多い。 ※欠陥住宅のことのみ記述している。	単元前は欠陥住宅への思いが強いようで、多くの記述があった。 配置１から配置２への大きな変化はなかった。 １・２時限から３・４時限の感想には大きな変化があり、A・Bの比較によって、家族の関わりの視点を獲得し、(オ)を身につけたようだ。 配置３で、初めて家族の関わりを考えた配置を工夫している。しかし、これはA・Bの比較の内容そのものであるために、(ウ)を発揮したとはしなかった。 ５・６時限のソファーを動かす活動によって、テレビの見やすさ、家族との話しやすさなど家族の動きをイメージするようになっている。 住まい方の工夫例の紹介によって、S君は住まい方を工夫することで家族の関わりができるという創意工夫のよさに気づいている(ア)。 自分の住まいの見直しでは、家族の関わりを視点にして見直している(エ)。また自分の部屋の鍵が使えないことをよいことと判断したことは、他の生徒にはない、彼なりの考えによるものである。
②配置図１理由	自分が配置したいものを好きなように配置しているが、特徴的な記述は見られない。	
③１・２時限感想	鳥瞰図の間取りの感想を記述している。	
④配置図２理由	自分が配置したいものを自由に配置しているが、特徴的な記述は見られない。	
⑤３・４時限感想	便利はいいけど、便利になればなるほど怠け者になり、わがままになり、家族の団らんも少なくなる。だから、便利ばかりがよくはない。テレビ・ビデオは団らんの間にあった方がよいと思う。自分の部屋にはあまりつけない方がいいと思う。冷蔵庫も同じ。 ※家族の関わりを考えるようになっている。住まいが性格に影響すると考えている。家具や家電のもつ意味やはたらきを理解している。	
⑥配置図３理由	２階にベンチと本棚を共同の本棚で勉強できるようにする。 ※初めて家族の関わりを考えた配置を工夫した。	
⑦５・６時限感想	ソファーの配置で一列に並んでいるよりもL字に並んでいる方がテレビが見やすいとは思わなかった。でも、話しやすさを考えると一列がいいと思った。 ※家族の動きをイメージしている。	
⑧住まい方の工夫例の紹介	大きなテーブルはいろいろな方法に使えて便利でいいなと思った。廊下にベンチと本棚を置くので、みんな顔を合わせたり、くつろげたりできそうでいいなと思いました。 ※住まい方を工夫することのよさに気づいている。	
⑨配置図４理由	特に変えていない。	
⑩自分の見直し	自分の部屋にCD以外の電気器具がほとんどない。(テレビ、電話、冷蔵庫) 自分の部屋の鍵が壊れていること。 ※家族の関わりの視点から見直している。	
⑪単元終了感想	ただ設備が整っていればよい。そういう考えはよくない。電気器具が自分の部屋にありすぎでは困る。家族の団らんを深めるためには、テレビ、ビデオなどのものはリビングにだけ置いた方がいい。 ※３・４時限の印象が強いようである。	
⑫単元後イメージ	自分の便利さよりも家族の団らんのことを考えた方がいい。 ※単元前のイメージと比較して大きな変容が見られる。	

〈考察〉

S君は単元前のイメージでは欠陥住宅のことについて多く記述している。そして、１・２時限終了後の感想と配置１の理由には、鳥瞰図の間取りの感想と好きなように配置したその理由を書いている。ここまでの記述からはS君が住まいの中身に求めているものは特別ないように思われる。それは配置２の理由でも同じであった。

しかし、３・４時限終了後の感想では、「便利になると家族の関わりが少なくなる。」や「テレビ・ビデオは団らんの間にあった方がよいと思う。」とあり、A・Bの比較の授業によって、家族の関わりの大切さに気づき、家具や家電の意味やはたらきを理解していることがわかる（オ)。そして、配置３でS君は、２階にベンチと本棚を配置している。これは、３・４時限に家族の関わりの大切さに気づいたS君が、５・６時限の住まい方の工夫例の紹介やソファーを動かす活動によって、住まい方を工夫することで家族の関わりがよくなることを実感することができたからだと思われる（ア)。そして、自分の住まいの見直し（エ）や単元終了後の感想、単元後のイメージでは、すべて家族の関わりについて記述している。

S君は、授業前は欠陥住宅のように住まいの構造への思いが強く、住まいの中身である、家族の生活についての思いはまったくなかった。それが、本授業で、住まいの中身を、家族の関わりから初めて考えたことによって、S君は驚きをもって追求することができるようになったと思われる。

⑤　便利さでイメージ→便利さと家族の関わりの両立　K.Tさんの学びの過程

資　料	記述の内容	コメント
①単元前イメージ	安らげる場所。快適であってほしい。 ※小学校で快適な家について、涼しい家、暖かい家、明るい家のテーマで追求する学習をしてきている。	3・4時限感想に、配置によって、温かくなったり、寂しく冷めた家にもなるとあり、住まい方の工夫のよさに気づいている（ア）。 妹の部屋からＴＶをなくし、自分の部屋のＴＶはそのまま置くことにしたという配置２の理由から、家具や家電、空間の意味の理解（オ）（カ）し、自分なりに工夫している（ウ）と判断した。 住まい方の工夫例の紹介でも、住まい方の工夫のよさを記述している（ア）。 配置３では、パソコンをソファーの後ろに配置することで家族の関わり方をよりよくしようとする工夫をしている（ウ）。 住まいの見直しでは、便利さだけで見直しているが、Ｋさんの家には家族の関わりが十分あるために便利さから見直しをしたのではないかと思われる。 単元終了後の感想には、住まい方の工夫のよさ（ア）と団らんと便利さが両立する住まいにしていきたいという自らの意欲（イ）が記述されている。
②配置図１理由	便利さから配置している。（動線を考えている。）パソコンはみんなで自由に使えるようリビングに。	
③１・２時限感想	提示した住まいは動きにくく、不便だと感じている。 ※便利さを考えている。	
④配置図２理由	妹の部屋からＴＶをなくし、リビングにいることが多いようにした。自分は夜中まで起きているので、ＴＶが必要だから残しておく。でも、リビングやダイニングにいることが多いのでこもる心配はない。	
⑤３・４時限感想	住まいはただ安らげるだけでなく、団らんの場であり、個人の場でもある。配置によって、温かくなったり、寂しく冷めた家にもなる。 ※家具や家電の配置が家の雰囲気を変えてしまうような大きな影響があると考えている。	
⑥配置図３理由	リビングにパソコンと本棚を配置した。 ※パソコンをリビングに配置して家族の関わりを考えているだけではなく、リビングにどう置いたら、より関われるかまで考えている。	
⑦５・６時限感想	移動がしやすいようにソファーと机を配置している。 ※動線を考えている。	
⑧住まい方の工夫例の紹介	家族とみんなの勉強・仕事の場を一緒にしたのはわからないことを聞くことができ、またそこから会話にもなっていくと思うのですごくいいスペースだと思った。学校にソファーと机が配置されている意味を自分なりに考えた。	
⑨配置図４理由	変えていない。	
⑩自分の見直し	便利さから見直している。	
⑪単元終了感想	家のつくり、家具の配置は自分の家族に合うように工夫して、団らんと便利さが両立できた住まいにしていきたいと思った。 ※便利さと家族の関わりの両立が大切であると考えている。	
⑫単元後イメージ	個人の空間を守ることも大切だが、家族の共通の空間をつくり、団らんできるようにすることが一番大切。	

〈考察〉

Ｋさんは小学校で快適な住まいについてかなり詳しく学習してきており、そのことに自信を持っている。また、Ｋさんの考えとして、住まいは便利であることが大切という思いが強くあり、彼女は授業の前に、住まいの視点として快適さと便利さをもっていた。そして、Ａ・Ｂの比較の授業では、ほとんどの生徒が家族の関わりの大切さを記述しているのに対し、Ｋさんは、「住まいは家族の場でもあり、個人の場でもある。配置によって温かくなったり、寂しく冷めた家にもなる。」と記述している（ア）。Ｋさんは、おそらくＡ・Ｂの比較の授業までは、住まいの快適さと便利さを個人の部屋から考えていたのではないかと思われる。それが、Ａ・Ｂの比較で、家族の関わりの視点を獲得したことによって、その両面が大切であるという思いになったのであろう。そして、配置２では、妹の部屋からはＴＶをなくし、自分の部屋にはＴＶを置くという配置をしている（ウ）（オ）（カ）。これは一見すると単なるわがままに感じられるが、その配置理由を見てみると、妹は帰宅してからの時間が長いため、ＴＶがあるとこもってしまう、しかし自分（兄）は塾で帰りも遅いため、ＴＶがあってもいいというように、家具や家電のもつ意味やはたらきを理解して配置しているだけでなく、妹と兄の生活時間と家族との関わりを考え、現実的に配置をしていることがわかる。

また、Ｋさんは、配置３で、リビングのソファーとテーブルの配置をダイニングからの移動を考えて配置している。Ｋさんがはじめからもっていた視点の便利さと家族の関わりを合わせて考えた工夫（ウ）であり、ソファーを動かす活動で、ソファーとテーブルの向きで家族の動きや関わりが変わることを実感したからこそできた工夫であると思われる。

そして、単元終了後の感想には、団らんと便利さが両立できた住まいにしていきたいという自らの意欲が記述されている（イ）。

Ｋさんは、授業前にもっていた個人の場としての快適さと便利さの視点と、授業によって獲得した家族の関わりの視点とを両立させる住まいを目指したことによって、実際的であり現実的である追求を深めることができた生徒である。

以上、５人の変容を学習過程から整理してきた。そこでわかったことは、A、Bの比較の手だては目標の家族の関わりに関する家具や家電、空間のもつ意味の理解に有効であり全体の傾向と同じであるが、O.M やK.T に見られるようにこの時点でウ（工夫できる）やア（工夫の良さへの思い）を獲得できる生徒もいる。A、B比較の手だては、個々の生徒に学習可能性を広げていくきっかけになっていることがより鮮明になった。住まい方の工夫例の手だてはア（工夫の良さへの思い）を獲得するために有効であった点は全体の傾向と同じである。A、Bの比較と工夫の例の手だてが、今回の順序で生徒の学習のきっかけとなり、相俟って有効に働いたと考えられる。

さらに、個々の学習過程を追って注目したのは、「住まいと家族の相互関係」のとらえ方である。I.Yは、住まいの良さとは家族の関わりを持てることだと住まいのあり方に収斂させていった。O.Mは、家族の関わりをよくするために住まい方の工夫があると家族のあり方の考えに収斂させた。K.T は、便利さという住まいの基準と家族の関わりの矛盾場面を考慮して住まい方の工夫として複数の解決法を考えた。

家具・家電の配置図はややもすると理想や現実離れに陥ることがあるが、今回はそうはならなかった。生徒は好きなものを好きなだけ配置することを、各時限を経て改めていったからである。配置図の作成は生活の現実場面をイメージするシミュレーションになっていたのである。

以上のことをまとめると、今回の授業は、家族の学習としても住居の学習としても現実の生活場面をイメージすることを助け、自分にとって家族との関わりの必要感やこれからの住居の考え方として総合される可能性を示していたと言えよう。

まとめ

①単元前の生徒の住居に対するイメージは住居の安全性、便利さ、衛生、快適さなど物理的な機能や価値に関するものが多かった。家族の関わりに注目していた生徒も日常の生活経験で知っている程度であり、リビングの役割やソファーが家族の生活と関わる働きをすることを考えているものではなかった。

A、Bの住まい方の比較という手だては多くの生徒の住まい観や家族生活の考え方の変容のきっかけになった。すなわち、A、Bの違いに驚きを持って「家族の関わりに対する家具や家電のもつ意味や働き」を学んでいるのである。授業記録にあるようにA、Bの比較の機会を与えられた生徒たちは、教師が言葉をはさむチャンスを逸するほど議論に熱中した。その過程で住まいや家具・家電と個人や家族の間の関係の状況を現実の具体的な場面でイメージする思考方法を手に入れた結果ではないかと思われる。

「家具の配置によっては個室に閉じこもることになる」「それは家族のふれあいがなくなり悪である、たまり場になり非行になる」の考えは、生徒にとっては影響が大であったのだが、「なぜ悪なのか、たまり場になるとはどういうことか」の議論は十分とは言えなかった。教師は助言する予定だったからである。しかしそれは出来ずじまいだった。授業記録の中で反省されていることである。それでもなお「住まいと家族は関係がありそうだ」と「発見した」り「わかった」というのであった。

住まい方の工夫の例を紹介されたり、いこいの広場でソファーやテーブルを動かしてみる活動の手だてが目標の「住まい方の工夫によって家族と関わることができるという創意工夫の良さ」に気づくために有効であった。そして自分なりの工夫も様々にできるようになっていた。

自分の家の見直しの機会では家族との関わりの視点から良い点や問題点を論理的に判断する記述が見られた。また単元終了後の感想を記述する際には、家族との関わりを持っていこう、住まい方の工夫をしようとする意欲を示していた。見直しの機会や単元終了後の感想が生徒たち自身で学習のまとめを行う手だてになっていたのである。これが、クラス全体の学習過程の様相であり、各手だては目標を達成するために有効に働いたということができる。

②個々の生徒の学習過程を見ていくと、A、B比較の手だては、個々の生徒に学習可能性を広げていくきっかけになっていることがより鮮明になった。そしてA、Bの比較と工夫の例の手だてが、今回の順序で生徒の学習のきっかけとなり相俟って有効に働いたと考えられる。

③この「住まいと家族」の単元を設定した意義を住居学習としてまた、家族の学習として見直した時、どのように評価できるのだろうか。

難しいが楽しいといわせた今回の学習は、答えはどこにもなく自らが出していくという意味を生徒に自覚させた。シミュレーションの課題に取り組むなかで各時限の手だてを手がかりにして、現実の生活場面をイメージすることを可能にしており、自分にとって家族との関わりの必要感やこれからの住居の考え方として総合される可能性を示している点で、家族の学習としても住居の学習としても、意義あるものであったといえよう。

そして検討すべき課題がある。たとえば、今回の授業の発展をどのように保障するのか、住まい方として歴史的に作られてきた食寝分離や就寝分離の秩序や家族とは何かという概念などを指導すべきかどうか。その検討をふまえて教育課程の編成を追究していきたい。

謝辞

島田中学校の校内研究会で行った授業と分析を改めて振り返りまとめさせていただいた。そのため校内研究会で採取された資料を使わせていただいた。また検討会で学んだことをふまえて進めることができた。附属島田中学校の先生方、全体講師の山崎準二先生にあつくお礼を申し上げます。

注及び引用文献

1）吉原崇恵著，「住居」『戦後家庭科教育実践研究』，田結庄順子編，梓出版，1996年

図3　住まい方の工夫の例としてあげたものは吉原著「住空間の計画と現代家族の住まい方」『ＡＳＳＥＴ　ビジュアル家庭科教育実践講座第5巻』，ニチブン，1998年から引用した。そこでも記したとおり，原出典は『ＡＥＲＡ　NO. 50』で紹介されているものである。

ソファーの向きを検討させるために用いた例は，天野　彰著，『家族関係をよくする家づくり』，講談社，1998年である．

2）本授業5・6時限の講師は筆者の一人吉原である。その際の説明記録は資料3の通りである。

参考文献

外山知徳，「住まいと子ども　4システムとしての住居」『新　住居学』，渡辺　高阪編，ミネルヴァ書房，1990年

資料３　講師の話の記録

先週皆さんが書いてくれた鳥瞰図を見せていただきました。大変興味深くて、皆さんのお話を聞きたいなあと思いました。今日は私の方から工夫した例を紹介します。

「住まい方」という言葉の確認（「住まい」と「住まい方」の違い）

その前にじゃあ確認をしておきましょうかね。皆さんがこれまで勉強してきたなかで、「住まい」っていうことばや「住まい方」ってことばが出てきたと思うんだけど、その整理をします。各自が家電の配置の工夫をしてきましたね。そのことが「住まい方」の工夫の一つです。で、「住まい」というのは家のことを言います。で、「住まい方」というのは、その家の中で、どんな生活をするかなとかどういうふうに住むかなってことを「住まい方」って言うんですね。だからこれからは「住まい方」ってことばを使って説明します。皆さんに紹介するのは、その人なりの住まい方の工夫をしている例です。

住まい方を工夫している例１

これを見てください。何をしているかな。お父さんがパソコンをしている。お姉さんが何か話をして、弟が勉強していますが、これはね、このお父さんが校長先生だそうです。このお父さんは家に帰っても原稿を書いたりする仕事があるんだそうです。それで、この家を建てるときに、自分の子供をね、高校生と大学生、なかなかね、自分で勉強することが多いですね。自分も家に帰ってから仕事をすることが多い。だから、みんなが、家族のみんなが座る、座れる、四人の席があるような大きな机を設けよう、そこのところで家族が顔を合わせるチャンスが作れるといいなっていうふうに考えたんだそうです。で今はこういう状態になっている。

住まい方を工夫している例２

もう一つの住まい方の工夫を紹介しましょう。ここはこういう場所なんですね。（絵を示す。）廊下なんですね。廊下の一隅、向こうの方はお父さんの書斎、背中を向けているのは気になるけれども、仕事をしています。そして、ここのところが本棚。この本棚にはみんなが使う辞書とか辞典、雑誌とかそういうものが置いてあるんですね。かっこいいことばで言うとファミリーライブラリーですね。で、調べものをしたり、お父さんに何か聞きたいなっていう時などにこういうところに来ていますね。ここも家族が共同で使うスペースってことになっています。

いこいの広場でソファーを動かす活動を促すための例

（３つ目の図を示して）これはね、上の図と下の図は同じお家なのに違ってますよね。どこが違うか、なぜ違えたのかを考えてみたいと思うのですが、最初にこういう状態だったんだけど、（示している図を変えて）こういう状態に変えたんだって。で、どうして変えたのかね、考えて欲しいと思います。この学校はそこの廊下の所にソファーとテーブルがありますね。みんなもこういうふうだとかこういうふうだとかに動かしてみて、どういうふうに違うかっていうのをね、試して考えて欲しいなって思います。

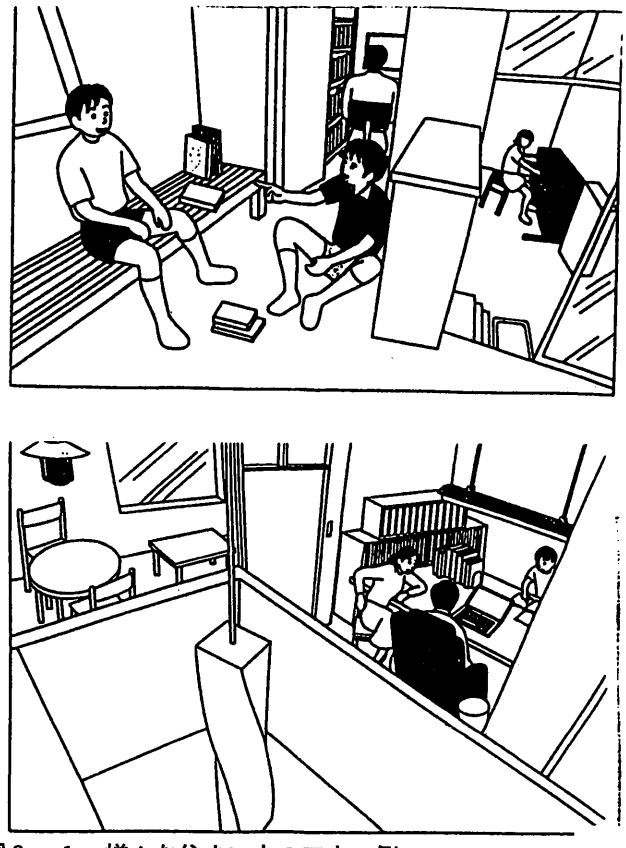


図３－１　様々な住まい方の工夫の例

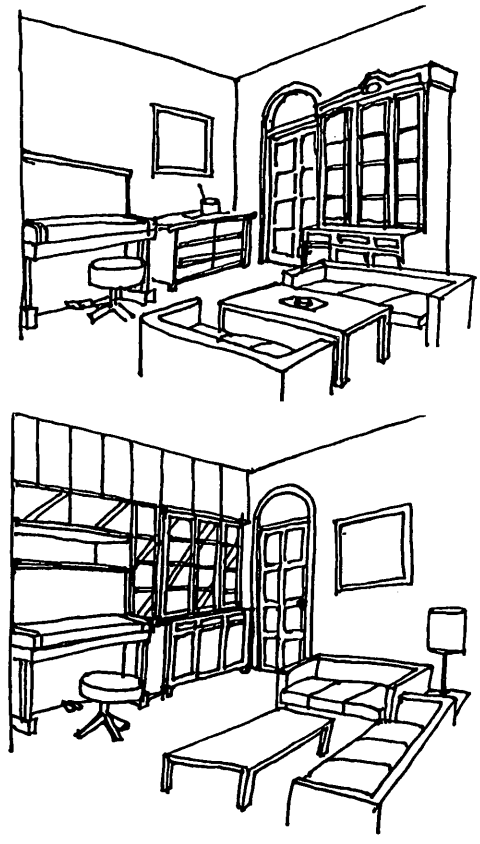


図３－２　いこいの広場でソファーを動かす活動を促すための例